

I

■出題のねらい

小・中学生の実態調査を題材にした問題です。平易な英語で書かれており、基本的な語法の知識や読解力が求められます。また、整序問題では英語による発信力を見ました。

■採点講評

易しい問題だったようで、よくできていました。ただ、とが少し難しかったようです。は **increased from 32.8 percent to 38.1 percent ...**と続く部分の主語なので、内容的にはそれほど難しくありません。ただ、答えの **figures** は多義語であり、これに「数値」という意味があることを覚えていなかったものと思われる。また、の解答で注意すべき点は、**those** に「人々」という意味があることです。ただし、**those** については意味を覚えるだけでなく、使い方を辞書で確認しておきましょう。

II

■出題のねらい

シェアハウスの住人による話し合いでの会話です。日常的な内容であり、場面を想像しながら読むと会話全体の内容が把握しやすくなるでしょう。

■採点講評

特にとが難しかったようです。どちらも熟語的な表現の意味を問う問題ですが、たとえ意味を知らなくても文脈から考えてみましょう。は、**Brian** の発言（それはいい考えだが、実際にうまくいかない）に対して **Alan** が発した **I think Brian has a point there.** の意味を問う問題です。4つの選択肢の中から、この文と置き換えることができるのはどれかを考えるとよいでしょう。すると、④ **I think what Brian said made sense.** (**Brian** の言ったことはもっともだと思う) しかないことがわかります。なお、**have a point** は「一理ある・もっともだ」という意味です。は **pet peeves** の意味を問う問題です。この表現に馴染みがないかもしれませんが、シェアハウスでの生活の問題点を挙げ、それを解決するという話の流れを考慮するとよいでしょう。**Next, any pet peeves?** の直前で問題が解決されたことを踏まえると、**Next** がヒントになります。このことから、次の問題点は何かということを表すのではないかと推測できます。大局的な視点で話の流れを掴み、局所的な部分を推測できるようにしましょう。

III

■出題のねらい

高齢者医療の補助をするゾラというロボットに関する英文です。様々なタイプの問題で構成されており、文脈を手掛かりに解く力が求められます。

■採点講評

全体的に難しかったようです。特に正答率が低かったのは [13] でした。void の意味を問う問題ですが、fill the void とあることから void は満たされるものであることがわかります。こう考えると、多かった誤答の② sickness を避けることができたでしょう。[14] は本文中の ... surprised by how attached patients have become が答えの鍵です。attached は「愛着がある」という意味ですが、この語を知らなかったとしても、この後に「他の患者がゾラと一緒にいることに嫉妬する患者もいる」ことが書かれていることから解答することができます。ほとんどの問題には当該箇所の前後に解く鍵があるので、前後にも注意を払うようにするとよいでしょう。

IV

■出題のねらい

ラジオ放送に関する新聞記事からの出題です。新聞記事はタイトルがその内容の要約でもあります。ここから記事の概要を掴み、詳細の記事から読み取ることが求められます。また本問では論理的な思考力も必要になります。

■採点講評

全体的に難しかったようです。特に正答率が低かったのは [18] の空所補充でした。正解の② halt (止める) はやや難しい単語ですが、would [18] AM broadcasting が本文のタイトルと同一の内容であることに気づけば、②以外が不適切であることは明らかです。なお、②以外の語は知っておくべき語です。[19] もやや難しかったようです。実際② worry と③ concerns はどちらも「心配事」という意味を表しますが、後者は複数形です。citing [19] that FM radio waves ...には冠詞がないことから③の方が適切であるといえます。なお、worry は単数形と複数形では意味が少し異なります。このような意味の違いや使い方については、辞書の記述や用例を通して理解を深めるとよいでしょう。[20] の内容一致の問いでは、②を誤って選んだ受験者が多かったようです。②は正しいように思えますが、本文の内容とは一致しません。この種の問題を解く際には、必ず本文に根拠を求めるようにしましょう。

V

■出題のねらい

日本語の表記に関する英文をもとにした総合問題です。本問では、基礎的な語法の知識、さらには文脈から意味を読み取る力が求められます。

■採点講評

22 と 23 はよくできていました。正答率が低かったのは 24 ～ 26 でした。下線部 2) の意味を問う 24 のポイントは、**edible or not** の意味です。**or not** が「～であろうとなかろうと」を意味する点が重要です。25 は下線部 3) の例を問う問題です。たしかに下線部中の **vowel** (母音) は難しい語ですが、下線部の直後にある「ハロー」という例と **bar** (横棒) から下線部の意味が推測できるでしょう。このように、具体例には文の内容の理解を助ける働きがあります。例を手掛かりに内容の理解を深められるようにしましょう。26 の内容一致の問題では②の誤答が多く見られました。注意すべき点は、②の前半は本文と一致しているのに対し、後半が一致していないことです。②の後半は「変わったつづりの例は他の言語では見られない」という意味ですが、本文に **Krispy Kreme** (一般的なつづりなら **Crispy Cream** と表記されるはず) の例があることから、後半が一致していないことがわかります。